



地域の情報をお寄せください

岩手日日 北上支社
0197(65)3447・0468
FAX 0197(65)1569

和賀町俳句会・小田島貞子さん

冬来れば
母の形見の
衣まとふ

わたしのうた



西和賀にアートの風を吹き込んだ13年
夏の風呂美の取り組み

西和賀町の関係者らで組織する銀河ホール学生演劇合宿事業実行委員会(高橋繁廣委員長)は20日から、美術系大学生によるアートプロジェクトを実施する。版画技法の一つであるシルクスクリーンを使い製作した手拭いの販売や体験ワークショップを開催するなどして、学生が芸術の力で地域に活気を呼び込む。同町の売りである温泉と美術系大学生とがコラボレーションすることから「風呂美大学」と銘

西和賀にアートの風を 20日から風呂美美術大学

打ったユニークな企画。2013年2月に開始し、これまでは学生のために格安の宿泊プランを用意し、お返しに学生たちは宿泊旅館の風呂掃除を担当。温泉施設と学生が協働し、施設の作品化にも取り組んできた。

夏を含めて3回目となる今回は、首都圏中心に参加予定の大学生6人が20、23日の4日間、町内旅館に滞在。21日午後4時30分からは湯本公民館で体験ワークショップを開催し、一般参加者にシルクスクリーンの魅力を伝授する。

また、23日午前10時から正午までは、湯田小学校の児童が制作した芸術作品を、共同浴場・丑の湯に展示紹介。入浴客は子供たちの芸術に触れながら、一日限りの一味違った入浴が楽しめる。このほか学生たちは、シルクスクリーンによる

手作りのオリジナル手拭い(1本500円)を販売する取り組みも行う。手拭いのデザインは西和賀にちなんだ題材を採用。町指定の名勝である「七ツ釜」に関する伝説がモチーフとなる予定。同時期に開催する学生演劇祭を鑑賞して、異分野の学生や町民らと交流を深める機会にもする。

元気に戻って来てね 長沼地区農地・水・環境活動組織 サケの稚魚1万匹放流

北上市の長沼地区農地・水・環境活動組織(高橋幹夫会長)は16日、同市和賀町長沼地内の水路



でサケの稚魚を放流した。子供たちが大きく成長して故郷へ戻って来ることを願いながら、稚魚の姿を見送った。

地元の小中学生や同組織役員、地区民合わせて約50人が参加。和賀川淡水漁協でふ化させた稚魚1万匹を放流した。

子供たちは役員に手伝ってもらいながら体長7センチほどに育った稚魚をバケツから水路へ優しく放流。二気に戻って来てね」などと呼び掛けながら下流に向かって元気に泳ぎだす姿を見守った。

地元では、参加者に旅館関係者との語らいを通して温泉の町に興味を持ってもらい、リピーターとなることを期待しており、アートによる新しい風をおこしたい考え。ワークショップの参加費は無料。企画の問い合わせは同実行委事務局の町観光協会(0197-81-1135)へ。

中心に綴る。ロシアの歌